

【海外情報】2020年における世界の木材需給動向  
－「UNECE/FAO 林産物市場年次報告書（2020-2021年）」より－

（要旨）

- ・2020年における世界の木材消費量は、COVID-19のパンデミックにより、全ての製品分野で減少（丸太▲3.3%、製材▲1.9%、木質パネル▲4.3%、紙・板紙▲3.9%）。ただし、針葉樹製材の消費量は1.0%増加。
- ・北米では、同年4月以降の米国での新設住宅着工増加により、針葉樹製材の価格が高騰。針葉樹製材の生産量は+0.8%増、消費量は+3.5%増。ただし、労働力の制約により、丸太生産量は▲5.3%減。
- ・欧州は、中国への被害木丸太の輸出増加とロシアからの丸太輸入減少により、針葉樹丸太の純輸出地域に変化。針葉樹製材は、生産量の増加分だけ、中国・米国向けの輸出量が増加。本年7月に「EU森林戦略」を策定、木材利用に重点。
- ・ロシアでは、針葉樹丸太・針葉樹製材ともに、生産量・輸出量が減少。他方、中国・フィンランド向けの広葉樹丸太の輸出は増加。2022年1月から丸太輸出禁止を導入予定。
- ・中国は、世界最大の丸太・製材輸入国。丸太調達先をロシア・北米から欧州へシフトしてきたが、欧州からの輸入は短期的にとどまる見込み。長期的には、丸太輸入から製品輸入にシフト。

（概要）

1. 報告書について

- ・「林産物市場年次報告書（Forest Products Annual Market Review）」は、UNECE森林・林業委員会とFAO欧州森林委員会の共同プログラムが、UNECE加盟国（56ヶ国）を対象として、毎年、林産物市場の動向をとりまとめているもの。
- ・同報告書では、「北米」（米加）、「欧州」（EU27ヶ国+15ヶ国）、「東欧・コーカサス・中央アジア（EECCA諸国）」（ロシアを含む12ヶ国）の地域別に、丸太、製材、木質パルプ、紙パルプ、木質エネルギー及び付加価値製品の分野別の動向を詳述。
- ・2020-2021年版の報告書は、本年11月に公表。

(※以下では、2020年における丸太、製材、木質エネルギーの動向を中心に紹介。)

## 2. 報告書の内容

### (1) 全般的動向

#### (ア) 概況

- ・2020年は、COVID-19のパンデミックにより、UNECE諸国全体で、経済活動が大幅に縮小。ただし、経済構造や政策対応の多様性により、縮小の度合いには国毎に違いあり。経済活動は、同年後半に回復して、世界の商業貿易は、パンデミック以前のレベルに復帰。
- ・米国では、過去2年間の市場縮小の後、2020年に住宅投資が増加。下半期の大幅な成長により、上半期の減少を相殺。EUでは、多くの国におけるロックダウンのため、2020年第一四半期に、建設活動が激減。第二四半期から回復が始まったが、パンデミック前よりも大幅に低いレベル。ロシアでは、2020年を通じて、建設活動は平坦。
- ・2020年におけるUNECE諸国の木材消費量は、産業用丸太で前年比▲3.3%、製材で▲1.9%、木質パネルで▲4.3%、紙・板紙で▲3.9%減少。ただし、針葉樹製材の消費量は、北米での増加(+3.5%)により、全体で+1.0%増加。

#### (消費量)

	丸太		製材			
		針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹	
北米	▲5.0%	▲1.3%	▲17.5%	▲2.0%	+3.5%	▲27.7%
欧州	▲2.5%	▲2.1%	▲3.9%	▲1.0%	▲0.4%	▲4.8%
EECCA諸国	▲0.6%	+0.1%	▲3.9%	▲6.4%	▲5.1%	▲17.0%
合計	▲3.3%	▲1.3%	▲10.3%	▲1.9%	+1.0%	▲18.3%

#### (生産量)

	丸太		製材			
		針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹	
北米	▲5.3%	▲1.8%	▲17.3%	▲4.0%	+0.8%	▲24.7%
欧州	▲1.7%	▲0.7%	▲5.4%	+1.1%	+1.6%	▲2.9%
EECCA諸国	▲0.2%	▲0.3%	▲0.1%	▲5.8%	▲5.0%	▲15.9%
合計	▲3.0%	▲1.1%	▲10.0%	▲2.2%	+0.0%	▲16.5%

表：2019～2020年における丸太・製材の消費量・生産量の地域別増減率

## (2) 地域別動向

### (ア) 北米

#### (a) 建設市場

- ・ 米国では、パンデミックに伴うテレワーク要請により、都市部からの移住とリフォーム需要が加速。郊外移住、低金利、販売住宅の不足、リフォーム、人口動態、消費者需要の累積等により、米国の住宅建築・販売が活発化。
- ・ 2020年の米国における住宅着工戸数は、前年比+6.9%増の138万戸。過去の平均である101万戸から大幅に増加。カナダにおける住宅着工戸数は前年比+3.8%の増加。
- ・ パンデミックの発生当初、針葉樹製材の需要量は激減。その後、DIY需要から回復が始まり、2020年4月以降は、製材の受注が増加。新設住宅着工の増加に伴い、2021年にかけて、針葉樹製材の需要は増加を続け、針葉樹製材の価格も同年5月末までに記録的なレベルに到達。SPF製材の価格は、1,630ドル/mbfとなり、2018年の記録を1,000ドル/mbf上回る。その後、2021年7月までに、価格は500ドル/mbfまで下落。

#### (b) 丸太

- ・ 2020年における北米の産業用丸太生産量は前年比▲5.3%減の500百万m<sup>3</sup>。うち、米国が過去6年で最低の370百万m<sup>3</sup>（同▲4.8%）、カナダが過去11年で最低の130百万m<sup>3</sup>（同▲6.7%）。
- ・ 樹種別では、針葉樹丸太が同▲1.8%減の400百万m<sup>3</sup>、広葉樹丸太が同▲17.3%減の99百万m<sup>3</sup>。
- ・ 米国では、製材・パネルに対する需要は高かったものの、林内作業や輸送、加工施設での労働力制約により、丸太生産量が減少。
- ・ 2020年後半から2021年初めにおける米国での針葉樹製材の高価格により、北米を通じて、針葉樹丸太の価格が上昇。（ただし、南部では、平均価格は、過去10年から大きな変化なし。）2020年第一四半期から2021年第一四半期にかけての丸太価格の上昇率は、カナダ西部で+33%、米国西部で+20%。
- ・ 国内市場における針葉樹丸太の高需要と高価格により、北米からの丸太輸出は減少。2020年における米国の針葉樹丸太輸出量は5.6百万m<sup>3</sup>で、2016年比▲40%減、過去30年で最低。カナダ向けが▲73%、中国向けが▲36%減少する一方、日本向けは比較的安定。
- ・ 2020年におけるカナダからの丸太輸出は、中国、日本、米国向けの全てについて減少。2017年以来減少傾向が継続。2020年における針葉樹丸太輸出量は2016年比▲60%減。純輸出量は過去5年間で、4百万m<sup>3</sup>から1百万m<sup>3</sup>まで減少。

### (c) 製材

- ・ 2020 年における北米の針葉樹製材生産量は、前年比+0.8%増の 101.6 百万 m<sup>3</sup>。うち、米国が同+4.0%増の 62.4 百万 m<sup>3</sup>、カナダが同▲4.0%減の 39.2 百万 m<sup>3</sup>。
- ・ 2020 年における北米の針葉樹製材消費量は、同+3.5%増の 99.7 百万 m<sup>3</sup>。(他方、広葉樹製材消費量は同▲28%減の 15.0 百万 m<sup>3</sup>で、製材消費量の合計も同▲2.0%減。)
- ・ 2020 年における北米の針葉樹製材輸出量は、前年比▲5.2%減の 28.2 百万 m<sup>3</sup>。うち、米国は同▲15.2%減の 1.96 百万 m<sup>3</sup> (※生産量の 3.1%)、カナダは同▲4.3%減の 26.2 百万 m<sup>3</sup> (※生産量の 67%)。米国は、国内での高価格により、輸出が減少。カナダは、米国以外向け (中国と日本で 80%を占める) で▲28.7%減少する一方、米国向けは+0.2%増加。
- ・ カナダの針葉樹製材に対する相殺関税と AD 関税の賦課は続いているが、価格上昇により、消費者への転嫁が容易となっている。2021 年の大部分の間、輸入関税は 9%であったが、年末までに 18%に引き上げられる見込み。
- ・ 2020 年における北米の針葉樹製材輸入量は前年比+4.3%増の 26.3 百万 m<sup>3</sup>。うち、米国は、欧州製品の増加により、同+4.5%増の 25.6 百万 m<sup>3</sup>。

### (d) 木質エネルギー

- ・ 2020 年における北米の木質ペレット生産量は前年比+5.4%増の 12.2 百万トン。うち、米国が同▲2.1%減の 8.4 百万トン、カナダが同+26.8%増の 3.8 百万トン。
- ・ 米国では、2016~2020 年に再生可能エネルギーの供給量が+13%増加したものの、木質燃料によるエネルギー供給は▲4%減少。国内における木質ペレット生産施設は 84 箇所、そのうち 70%が南東部に位置。南東部から欧州に輸出される木質ペレットの持続可能性については、EU と英国のメディアなどで議論あり。

### (e) 政策動向

- ・ 米国議会は、パンデミックを受けて、木材伐採業者への支援として 2 億ドルの支援を提供。他の森林関連産業も、融資や納税猶予等の支援措置の対象。
- ・ 米国 APHIS (動植物健康調査庁) は、2020 年 10 月からレイシー法の「フェーズ 6」を導入予定であったが、パンデミックのため延期 (※2021 年 10 月に導入済み)。「フェーズ 6」では、これまでの申告を必要とする対象品目に加えて、精油、木製ケース・トランク、OSB、箱、木箱 (crate)、パレット、楽器

(クラリネット、ドラム等)を追加。

## (イ) 欧州

### (a) 建設市場

- ・ 消費者動向調査によれば、欧州における住宅の購入・建設の計画は、2003年以降で最高のレベル。リフォームに対する意欲も過去最高。新設住宅は、欧州建築市場における主要な付加価値生産の源で、2020年における建築市場の付加価値生産額（3,420億ユーロ）の25%を占める。このうち、リフォームが26.9%。新設住宅に対する支出は、2015～2020年で+24%増加。
- ・ 投資家の住宅部門に対する関心が上昇。欧州の建築部門による調査によれば、2020年に、再利用された建築物の68%は住宅への転用であった。住宅部門には堅調な需要が見込まれ、住宅不動産（への投資）は、多くの企業による環境的、社会的、ガバナンス的な方針にも適合する。

### (b) 丸太

- ・ 2020年における欧州の産業用丸太生産量は、8年連続増加の後、前年比▲1.7%減の426百万m<sup>3</sup>（産業用丸太に加えて、143百万m<sup>3</sup>の燃料用丸太も生産）。うち、針葉樹丸太が339百万m<sup>3</sup>（全体の80%）、広葉樹丸太が87百万m<sup>3</sup>（同20%）。
- ・ 減少幅が大きかったのは、フィンランド、イタリア、ポーランド、オーストリア、スロバキア。減少の主な理由は、虫害や風倒木被害を受けた中欧諸国からの丸太輸入が増加したことによる。
- ・ 丸太生産量が増えた唯一の国はドイツ。2020年の生産量は、過去5年間のレベルから+40%増加して、62百万m<sup>3</sup>。
- ・ 2020年における欧州の針葉樹丸太消費量は、前年比▲2.1%減の339百万m<sup>3</sup>（針広計の78%）。2016年からは+3%増。スウェーデン、ドイツ、フィンランド、ポーランド、オーストリアが主要な針葉樹丸太消費国で、5ヶ国で消費量の2/3を占める。
- ・ 欧州は、長らく針葉樹丸太の純輸入国であったが、2019年から2020年にかけて、中国への被害木丸太の輸出が増加する一方、ロシアからの輸入が減ったことから、純輸出国に変化。2020年の純輸出力は12百万m<sup>3</sup>で、域内以外の主要な輸出先国は中国。
- ・ 欧州の主要な丸太輸出国は、チェコとドイツ。両国は2019年から中国に針葉樹丸太の輸出を開始。2020年には両国で10百万m<sup>3</sup>の針葉樹丸太を中国に輸出。ただし、輸出急増は、虫害や風倒木の被害木の大量発生によるもので、あくまで一時的なもの、今後減少する見込み。

### (c) 製材

- ・ パンデミックにも関わらず、2020年における欧州の針葉樹製材生産量は、前年比+1.6%増の114百万m<sup>3</sup>となった。
- ・ ドイツでは、虫害被害木の処理により、針葉樹製材生産量が200万m<sup>3</sup>以上増加。 オーストリアやチェコでも同様に増加。他方、スウェーデンでは▲0.7%、フィンランドでは▲4.2%減少。フィンランドの減少は、主に製材工場における労働争議による。
- ・ 2020年における欧州の針葉樹製材消費量は、同▲0.4%減の95.9百万m<sup>3</sup>。 パンデミック下でも、需要は比較的力強い。建築市場がロックダウンの影響を受けることはなく、DIY部門も自宅滞在に伴うリフォーム活動により活発化。
- ・ 2020年の消費量増減は、国によって大きな幅あり。 イタリアでは、パンデミックの影響で針葉樹消費量が▲30%減少したのに対して、英国では、逆に+1.6%増加。
- ・ 2020年における欧州の針葉樹製材貿易は、域外市場の急成長により、輸出主導となった。針葉樹製材の輸出量は2.02百万m<sup>3</sup>以上増加、ほぼ半分が中国に、残りの半分が米国に向けられた。 主な輸出国は、スウェーデン（+10.4%、140万m<sup>3</sup>増）とドイツ（+8.2%、70万m<sup>3</sup>増）。日本向けは▲7%減、北アフリカ向けは▲13%減。
- ・ 欧州全体の輸入には、大きな変化なし。

### (d) 木質エネルギー

- ・ EU27ヶ国では、丸太生産量の23%をエネルギー供給に利用（※2000年時点では17%）。キプロス、イタリア、オランダでは、丸太生産量の60%近くをエネルギー供給に利用。
- ・ 2020年における欧州の木質ペレット生産量は前年比+3.0%増の22.5百万トン。 輸入は0.3%減の21.7百万トン（※生産量とほぼ同量を輸入）。
- ・ オランダの木質ペレット輸入量は2020年に倍増して2.4百万トン。木質ペレットによるエネルギーは、再生可能エネルギー供給量の約10%を占める。2020年におけるオランダのペレット消費量は約2.9百万トンで、2百万トンが石炭混焼に用いられている。
- ・ スウェーデンでは、パンデミックによる木質エネルギー部門への影響は軽微。バイオエネルギーを活用したCHPプラントの数は、2019年の230から2020年に242まで増加。同国でキクイムシ被害を受けた被害木の大部分（8百万m<sup>3</sup>程度）は、エネルギー用に利用。

## (e) 政策動向

- ・ EU は、2020 年 5 月に、パンデミック対応の政策パッケージとして、予算規模 7,500 億ユーロ規模の「次世代 EU (Next Generation EU)」を公表。加盟国の半分以上が、国別の経済回復計画において、木質バイオマスの利用を含む公共建築物の整備・リフォームを計画。
- ・ EU は、2021 年 7 月に「EU 森林戦略」を策定。新たな「EU 森林戦略」は、「欧州グリーンディール」と「EU 生物多様性戦略 2030」に基づくもの。EU は「EU 気候変動戦略」で、2030 年までに 55%の排出削減、2050 年までに脱炭素を達成することを目標に設定。「EU 森林戦略」は、林産物市場に中期的・長期的な影響を与える見込み。
- ・ 同戦略は、加盟 27 ヶ国における林業・森林関連産業の重要性を再確認。林業・森林関連産業は、域内で 400 万人の雇用と 1,600 億ユーロの付加価値を生産。森林の有する多面的機能は、地域社会への貢献を通じて、気候変動の目標を持続的に達成するための主要な要素となる。
- ・ 木材を含む持続可能な資材は、EU における持続可能で気候変動ニュートラルな社会への移行に向けたカギとなる。同戦略は、木質バイオマスを長寿命の資材・製品に加工することで、樹木による炭素固定が大幅に期間延長されることを認識。伐採木材製品は、年間 40 百万 CO<sub>2</sub> トンの炭素シンクに相当することを指摘。また、木材による資材代替効果は、年間 18~43 百万 CO<sub>2</sub> トンと見積もり。「カスケード原則」や、短寿命の木製品を繰り返して使う「循環利用」も重視。
- ・ 同戦略は、建築部門を GHG 排出源から炭素シンクに変容させることの重要性を強調。欧州委員会は、木造建築資材の気候変動に対するメリットを数量化する標準的で透明な手法を開発する予定。
- ・ 同戦略は、EU の再生可能エネルギーの 60%が木材に直接又は間接に由来することを指摘。しかしながら、エネルギー生産のための丸太利用は最小限にすべきことを指摘。

## (ウ) EECCA 諸国

### (a) 建設市場

- ・ ロシアには、38~40 億 m<sup>2</sup>の住宅床面積あり。年間平均着工面積は 7,600 万 m<sup>2</sup>。ロシアにおける新設住宅の 15~18%は木造。

### (b) 丸太

- ・ 2020 年における EECCA 諸国の丸太生産量は、前年比▲0.2%減の 228 百万 m<sup>3</sup>。うち、針葉樹：182 百万 m<sup>3</sup>、広葉樹：46 百万 m<sup>3</sup>。

- ・ ベラルーシでは、2010年から2020年にかけて、丸太生産量が倍増。主に、輸出向け製材工場の規模拡大に伴う原料需要の増加による。過去5年間で、近隣国と中国向けの針葉樹製材輸出が大幅に増加。
- ・ ロシアでは、丸太生産量が2年連続減少、2020年は前年比▲0.6%減の202百万m<sup>3</sup>。減少の大部分は針葉樹丸太で、輸出需要の減少と国内製材工場における消費量の減少による。ただし、長期的には、ロシアにおける丸太需要は増加傾向で、2020年の丸太消費量は2010年から50%近く増加。
- ・ 2020年におけるロシアの丸太輸出量は前年比+2.6%増の16百万m<sup>3</sup>。針葉樹丸太が減少する一方、広葉樹丸太は増加。2020年の広葉樹丸太輸出量は、2010年比+80%増の8.1百万m<sup>3</sup>（※針葉樹丸太の輸出量も8百万m<sup>3</sup>程度）。中国向けの製材用丸太とフィンランド向けのパルプ用丸太が増加。
- ・ 2022年1月から、針葉樹丸太と高価値の広葉樹丸太の輸出が禁止される予定。短期的には、中国の製材加工業が最も大きな影響を受ける見込み。

### (c) 製材

- ・ 2020年におけるEECCA諸国の針葉樹製材生産量は、前年比▲5.0%減の47.3百万m<sup>3</sup>。うち、ロシアは同▲5.7%減の38.9百万m<sup>3</sup>。
- ・ EECCA諸国の針葉樹製材消費量は、同▲5.1%減の15.1百万m<sup>3</sup>。輸出量は同▲4.4%減の36.8百万m<sup>3</sup>（※生産量の78%を輸出）。
- ・ ロシアの針葉樹製材輸出量は、パンデミックに伴う輸送制約とコンテナ運賃の上昇により、同▲5.2%減の29.8百万m<sup>3</sup>。域外国への輸出が同▲9%減少して23.8百万m<sup>3</sup>となったのに対して、域内国への輸出は同+16%増の6.0百万m<sup>3</sup>。主な輸出先は、中国（同▲12%減の18.1百万m<sup>3</sup>）、ウズベキスタン（同+9%増の2.7百万m<sup>3</sup>）、アゼルバイジャン（同+7%増の1百万m<sup>3</sup>）、エジプト（同▲16%減の0.96百万m<sup>3</sup>）。

### (d) 木質エネルギー

- ・ 2020年におけるEECCA諸国における木質ペレットの生産量は前年比+7.0%増の4.5百万トン。生産量は過去5年間で70%増加。生産量の2/3は、アジアと欧州に輸出。ロシアが最大の生産国であるが、ベラルーシの生産量は前年比+35.2%増の0.557百万トン。
- ・ 2020年におけるロシアの木質ペレット生産量は、同+6.5%増の1.96百万トン。ペレット生産施設への投資により、今後、生産能力は年間11.8万トン増加する見込み。

### (e) 政策動向

- ・ロシアは、2021年7月1日から12月31日を対象として、未乾燥製材に対する新たな輸出税を導入。針葉樹及びナラの製材に対する税率は10%（但し、最低税額は、それぞれ13ユーロ/m<sup>3</sup>、15ユーロ/m<sup>3</sup>）。ブナ及びタモは、既に輸出関税が賦課されているが、今回税率を10%に引き上げ（最低税額も、それぞれ10ユーロ/m<sup>3</sup>、12ユーロ/m<sup>3</sup>から50ユーロ/m<sup>3</sup>に引き上げ）。

## （エ）その他の地域

### （a）丸太

- ・世界で取引される産業用丸太の大部分は中国に向けられる。中国は、2020年に60.2百万m<sup>3</sup>の産業用丸太（うち針葉樹：46.9百万m<sup>3</sup>、広葉樹：13.3百万m<sup>3</sup>）を輸入。
- ・2020年に、中国の丸太と製材の輸入量合計は、過去5年で初めて減少（針葉樹製材輸入量は前年比▲11%減少）。中国における丸太輸入から製品輸入へのシフトは続くと見込まれるが、2020年における製材輸入量の減少幅は過去最大。
- ・ドイツ、スウェーデン、ウクライナが中国向けの製材輸出量を増加させる一方、他の輸出国は減少。ロシアから中国への輸出は、丸太で同▲26%、製材で同▲15%減少。
- ・ロシアは、過去数十年にわたり、中国にとって重要な丸太供給国であったが、2022年に予定されている針葉樹丸太と高付加価値広葉樹丸太の輸出禁止により、大きく変化する見込み。
- ・中国の丸太調達は、ここ数年間、ロシアと北米から欧州へとシフト。これは、中欧で、虫害・風倒木による被害木が一時的に潤沢にあったためである。欧州からの針葉樹丸太輸入量は、2018年の1.3百万m<sup>3</sup>から2020年には12.3百万m<sup>3</sup>に増加。このうち、ドイツは8.5百万m<sup>3</sup>、チェコが2.8百万m<sup>3</sup>。他方、ロシアからの輸入量は、同期間に7.8百万m<sup>3</sup>から4.2百万m<sup>3</sup>に減少。
- ・欧州からの大量輸出が長期的に可能とは言い難い。中国は、短期的には、欧州、北米、オセアニアからの丸太輸入を増やし、長期的には、輸入形態を丸太から半製品にシフトさせ、ロシアを含む幅広い国々から調達するようになると見込まれる。

### （b）製材

- ・中国は、世界最大の製材輸入国。2020年の輸入量は33.9百万m<sup>3</sup>（うち、針葉樹：26.1百万m<sup>3</sup>、広葉樹：9.1百万m<sup>3</sup>）。
- ・アジアは、熱帯製材貿易の中心地で、輸入量の86%、輸出量の61%を占める。主な輸入国は中国、ベトナム、インド、タイ、主な輸出国はタイ、マレ

ーシア。アフリカ、特にカメルーンとガボンも重要なプレーヤーで、ブラジルも近年輸出国として登場。

- ・ 中国は、世界最大の熱帯木材輸入国でもあり、2020年における世界の輸入量の63%を占める（前年から9ポイント上昇）。中国では、2020年第一四半期にパンデミックが抑制されたことから、経済活動が他国よりも力強く回復。
- ・ 2020年におけるベトナムの熱帯製材輸入量は、前年比+15%増の0.67百万m<sup>3</sup>。
- ・ 2020年におけるタイの熱帯製材輸出量は、微減の3.6百万m<sup>3</sup>で、ほとんどがゴムノキの製材。マレーシアの製材輸出量は、原木不足、運賃上昇、コンテナ不足、労働力不足により、1/3減少。
- ・ 2020年におけるブラジルの輸出量は、他の輸出国とは逆に、前年から倍増の0.8百万m<sup>3</sup>。アマゾンやパラ州における丸太輸出規制が緩和された影響による。

### (c) 木質パネル

- ・ UNECE域外では、中国、韓国、日本が最大の木質パネル輸入国。2020年の輸入量は、それぞれ、3.2百万m<sup>3</sup>、3.2百万m<sup>3</sup>、3.1百万m<sup>3</sup>。
- ・ 中国は、世界最大の木質パネル輸出国で、2020年の輸出量は12.1百万m<sup>3</sup>。次いで、カナダ、ドイツ。
- ・ UNECE域外では、日本と韓国の輸入、インドネシアとマレーシアの輸出が熱帯合板貿易の大部分を占める。UNECE地域では、2020年に、世界の熱帯合板輸入の35%を占める欧州の輸入が減少する一方、米国の輸入が急速に増加。世界の木質パネル輸入量に占める米国のシェアは、2016年の11%から、2020年には25%まで上昇。
- ・ 日本の熱帯合板輸入量は、2013年以降、減少傾向。2020年の輸入量は前年比▲29%減の1.2百万m<sup>3</sup>。主な要因は、建設活動の減退、熱帯合板の減少、国産材使用に向けた合板加工施設・技術への再投資、南洋材合板の入手可能性低下など。2020年には、インドネシアとマレーシアからの合板輸入は、パンデミックに関連した労働安全のための取組、リードタイムの延長、労働力不足、コンテナ輸送コストの上昇などにより、制約を受けた。日本の合板消費量に占める国産合板の割合は67%に上昇。
- ・ 2020年におけるインドネシアの輸出量は前年比▲28%減の2.3百万m<sup>3</sup>となったが、依然として、世界の輸出量の35%を占める最大の輸出国。日本への輸出量は同▲19%減少したものの、米国向けの輸出は同+10%増加。米国の輸入業者は、供給源を中国から他のアジア諸国にシフト。マレーシアの合板生産・輸出は、原料丸太の不足に影響を受け続けており、パンデミック前の規

模に戻っていない。

- ・他の輸出国とは異なり、ベトナムでは、2020年の熱帯合板輸出量が前年比+32%増の1.5百万m<sup>3</sup>。政府の支援によるパンデミック第一波後の生産回復と、米国における住宅需要の増加による。
- ・中国の熱帯合板輸出量は、2017年から減少が続いており、2020年には0.495百万m<sup>3</sup>。米国による中国産合板への相殺関税の賦課と、下半期における国内需要の回復による。

(以上)

【資料の出典】

[https://unece.org/sites/default/files/2021-11/2114516E\\_Inside\\_Final\\_web.pdf](https://unece.org/sites/default/files/2021-11/2114516E_Inside_Final_web.pdf)

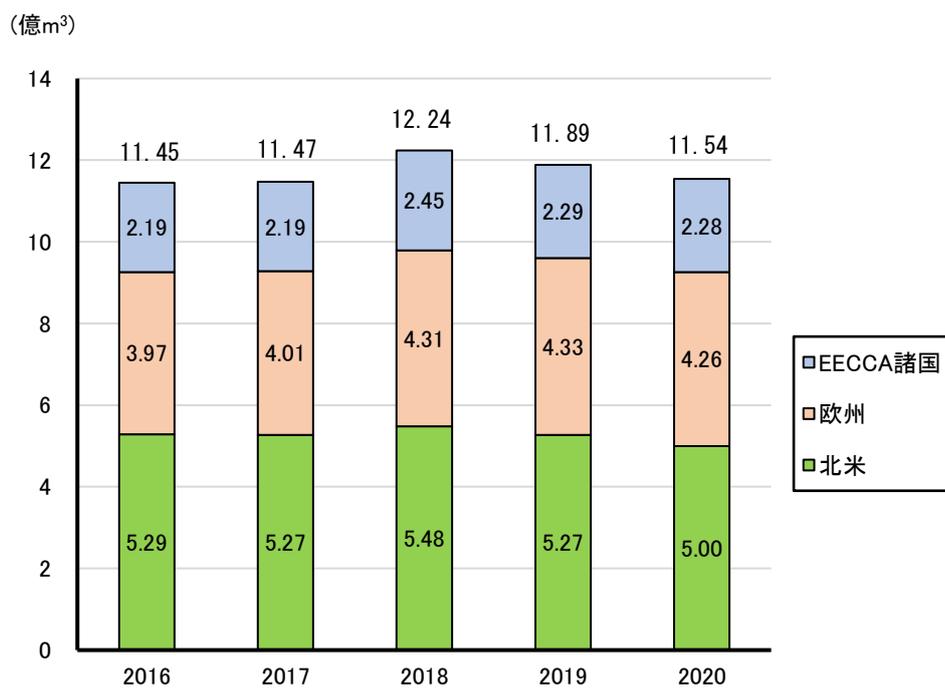


図 1 : UNECE 諸国における産業用丸太生産量 (2016-2020)

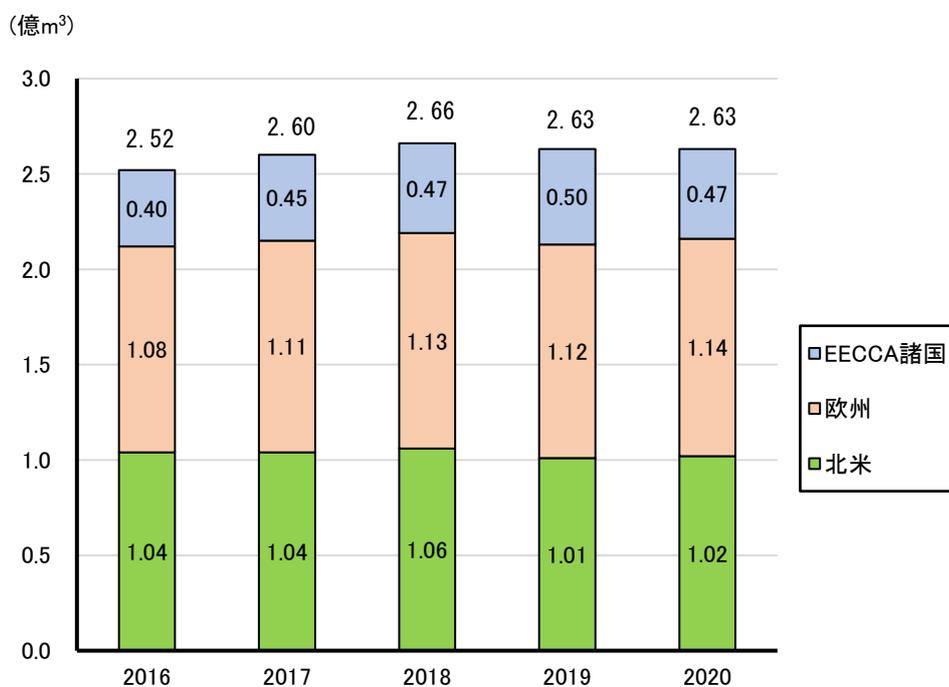


図 2 : UNECE 諸国における針葉樹製材生産量 (2016-2020)